

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教科名	国語	年次	2	コース	全コース
科目名	論理国語	履修区分	必修	単位数	2
教科書(出版社)	「論理国語」(大修館書店)				
副教材(出版社)	「改訂版 漢字とことば 常用漢字ワイドアルファ」(桐原書店)				
教科の目標	国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。				
	(1) 読む能力・書く能力 ・文章の内容や形態に応じた表現の特色を読み取ったり、要約したりすることができる。 ・論理的な文章や記録的な文章の他、随筆など情緒的な文章を書くことができる。 ・文章の段落構成を的確にとらえ、筆者の主張をつかむことができる。	(2) 話す・聞く能力 ・自分の考えを持ち、目的や場に応じた効果的に話したり的確に聞き取ったりできる。 ・自己評価や相互評価を行い、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすることができる。	(3) 関心・意欲・態度 ・国語を適切に表現し的確に理解しようとする。 ・伝統的な言語文化の特質などを理解しようとする。		
科目の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。				
	(1) 知識および技能 ・実社会に必要な国語の知識や語彙力、場面に応じた言葉遣いなどの技能を身に付けるようにする。	(2) 思考力、判断力・表現力等 ・論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりできるようにする。	(3) 学びに向かう力、人間性等 ・言葉がもつ価値への認識を高めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会と関わろうとする態度を養う。		

1 学習の進め方と留意点

- (1) 資料やタブレット等を活用して、分からないことを調べながら授業を進めていきます。
- (2) 「読むこと」「聞くこと」「自分の考えを適切に表現すること」文字を丁寧に「書くこと」常に意識しましょう。
- (3) 評価は定期考査や課題提出物、主体的な授業への取り組みを総合的に判断します。

2 評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	・文法を理解し、テキストの内容を正確に理解することができる。 ・場面や相手によって言葉の使い方が変わることを理解することができる。 ・文章の要旨をまとめ、分掌の要点を把握することができる。	・自分の考えが適切に伝わるように効果的に話すことができる。 ・表現の違いから動作の主体を思考し判断することができる。 ・テキストの内容を理解し分かりやすくまとめることができる。	・学習活動に対して主体的に取り組もうとしている。 ・自分の考えや意見を積極的に発信することができる
評価資料	・定期考査 ・ノート ・課題プリント ・活動状況の観察。	・定期考査 ・ノート ・課題プリントの内容 ・活動状況の観察	・活動状況の観察 ・授業への積極的な参加 ・ノート・課題の提出状況
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A(80%以上) B(40%~79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A(80%以上) B(40%~79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A(80%以上) B(40%~79%) C(40%未満)とする
評定及び 観点別学習状況の評価	3観点の達成率を1:1:1で集約し、5(80%以上)、4(60%~80%未満)、3(40%~60%未満)、2(30%~40%未満)、1(30%未満)の評定をつける。 また、各観点の評価を「ABA」等の形でまとめて観点別学習状況の評価とする。		

3 年間授業計画

月	時数	学習内容	学習活動や学習のねらい	評価の観点		
				知	思	態
4	1 7	ガイダンス 「世界を広げる「批評」の 言葉」 宇野常寛	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の進め方や評価基準について理解する。 ・各段落で述べられた筆者の考えを押さえて通読する。 ・比喩表現や文章の論理的構造を理解する。 ・筆者が主張する「世界との向き合い方」について考える。 	○	○	○
5	8	「ミロのヴィーナス」 清岡卓行	<ul style="list-style-type: none"> ・具体例を挙げて説明している部分を指摘する。 ・「美しい」とはどのようなことかを考える。 ・具体と抽象について理解する。 ・倒置法などの表現技法について確認する。 	○	○	○
6	1 8	前記中間考査・解説 「家族化するペット」 山田昌弘	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの内容を振り返り、今後の学習に役立てる。 ・統計資料や事例と主張の関係を捉える。 ・社会構造の変化が、思考・感情に影響を与えることについて考えを深める。 	○	○	○
7 8	8	「自己をモデルにする知能」 石黒 浩	<ul style="list-style-type: none"> ・「人工知能」と「人間」の違いに注意する。 ・論理の展開を的確に押さえ、主張を捉える。 ・科学技術の進歩と人間の本質について考える。 	○	○	○
9	1 8	前期期末考査・解説 「敬語への自覚、 他者への自覚」 橋本 治	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの内容を振り返り、今後の学習に役立てる。 ・敬語についての筆者の主張と論理の展開をつかむ。 ・敬語や若者言葉など、言葉と社会の関係について考えを深める。 ・日本語の多様性について興味を深める。 	○	○	○
10	8	「スキーマと記憶」 今井むつみ	<ul style="list-style-type: none"> ・実験結果などの具体例の本文中での役割を理解する。 ・記憶や学習におけるスキーマの働きを理解する。 ・幅広いものの見方について考えを巡らす。 	○	○	○
11 12	1 8	後期中間考査・解説 「社会的実在としての 言語・法・貨幣」 岩井克人	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの内容を振り返り、今後の学習に役立てる。 ・論の展開のしかた、具体的なポイントの意図を理解する。 ・言語・法・貨幣がどのような存在かを読み取る。 ・現代社会についての認識を深める。 	○	○	○
1	8	「心に「海を」持って」 山崎正和	<ul style="list-style-type: none"> ・文章全体の構成を意識して、筆者の主張を捉える。 ・文明と海や人との関係を知る。 ・普遍的な文明について理解を深める。 	○	○	○
2 3	1 2	後期期末考査・解説 次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの内容を振り返り、今後の学習に役立てる。 1、2年次での振り返りと次年度の課題について考える。 	○	○	○

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教科名	国語	年次	2	コース	全コース
科目名	文学国語	履修区分	必修	単位数	2
教科書(出版社)	「文学国語」(大修館書店)				
副教材(出版社)	なし				
教科の目標	国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。				
	(1) 読む能力・書く能力 ・文章の内容や形態に応じた表現の特色を読み取ったり、要約したりすることができる。 ・論理的な文章や記録的な文章の他、随筆など情緒的な文章を書くことができる。 ・文章の段落構成を的確にとらえ、筆者の主張をつかむことができる。	(2) 話す・聞く能力 ・自分の考えを持ち、目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞き取ったりできる。 ・自己評価や相互評価を行い、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすることができる。	(3) 関心・意欲・態度 ・国語を適切に表現し的確に理解しようとする。 ・伝統的な言語文化の特質などを理解しようとする。		
科目の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。				
	(1) 知識および技能 ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	(2) 思考力、判断力・表現力等 ・深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようになる。	(3) 学びに向かう力、人間性等 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会と関わろうとする態度を養う。		

1 学習の進め方と留意点

- (1) 資料やタブレット等を活用して、分からないことを調べながら授業を進めていきます。
- (2) 「書くこと」「読むこと」を通して我が国の言語文化について理解を深めましょう。
- (3) 評価は定期考査や課題提出物、主体的な授業への取り組みを総合的に判断します。

2 評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解できている。 ・情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増やし、文章の中で使い、語彙を豊かにしている。 ・文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について体系的に理解して使うことができる。	・文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にできる。 ・文体の特徴や修辞の働きなどを考慮し、読み手を引き付ける独創的な文章になるよう工夫できる。 ・自由に発想したり評論を参考にしたりして、小説や詩歌などを創作し、批評し合うことができる。	・学習活動に対して主体的に取り組もうとしている。 ・自分の考えや意見を積極的に発信することができる。
評価資料	・定期考査 ・ノート ・課題プリント ・活動状況の観察。	・定期考査 ・ノート ・課題プリントの内容 ・活動状況の観察	・活動状況の観察 ・授業への積極的な参加 ・ノート・課題の提出状況
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A(80%以上) B(40%~79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A(80%以上) B(40%~79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A(80%以上) B(40%~79%) C(40%未満)とする
評定及び 観点別学習状況の評価	3観点の達成率を1:1:1で集約し、5(80%以上)、4(60%~80%未満)、3(40%~60%未満)、2(30%~40%未満)、1(30%未満)の評定をつける。 また、各観点の評価を「ABA」等の形でまとめて観点別学習状況の評価とする。		

3 年間授業計画

月	時数	学習内容	学習活動や学習のねらい	評価の観点		
				知	思	態
4	1 7	ガイダンス 随筆「光の窓」 小池昌代	<ul style="list-style-type: none"> 授業の進め方や評価基準について理解する。 筆者のものの見方や感じ方を読み取り、言葉と感覚との関係について考察する。 比喻表現や文章の文章の構造を理解する。 絵画に触れ、その魅力を自分自身の感覚と関連付けながら表現できる。 	○	○	○
5	10	小説「山月記」 中島 敦	<ul style="list-style-type: none"> 小説に描かれた世界を味わい、そこに表された人間のあり方について考えを深める。 登場人物の心情を表現に即して把握し、主人公の内面と苦悩について考える。 リズムのある漢語調の表現に触れ、語感を養う。 主人公の生き方を自分自身のこととして考察し、自分の将来について考えを深める。 	○	○	○
6	1 4	前記中間考査・解説 評論「言葉を生きる」 若松英輔	<ul style="list-style-type: none"> 前時までの内容を振り返り、今後の学習に役立てる。 評論に述べられた内容を的確に理解し、「言葉」の意義や特質について考える。 筆者の考えを表現に即して読み取り、「生きること」と「言葉」の関係について理解を深める。 	○	○	○
7 8	10	小説「山椒魚」 井伏鱒二	<ul style="list-style-type: none"> 小説を読み、そこに込められた寓意や描かれた人々の姿から、生きることへの考えを深める。 登場人物の心情を理解しつつ、現代社会に生きる私たちが抱える問題について考える。 自分自身の生き方や考え方に触れながら、この小説にどのような寓意が感じられるかを考察する。 	○	○	○
9	1 7	前期期末考査・解説 「詩歌」 ～永訣の朝を中心に～	<ul style="list-style-type: none"> 前時までの内容を振り返り、今後の学習に役立てる。 詩歌の表現の特色を理解して味わう。 宮沢賢治の生き方について触れ、詩に込められた思いを読み取り、鑑賞する。 	○	○	○
10	10	小説「こころ」 夏目漱石	<ul style="list-style-type: none"> 小説における場面展開や、人物の性格・心理の描写を読み取る。 人間の関係性と心情を的確に捉え、人の心のありようについて考えを深める。 夏目漱石と同時代の文学について学び、名作とされる作品に触れる。 	○	○	○
11 12	1 7	後期中間考査・解説 評論「文学のふるさと」 坂口安吾	<ul style="list-style-type: none"> 前時までの内容を振り返り、今後の学習に役立てる。 具体例や引用と筆者の主張との関係に注意して評論を読み、文学の価値や意義について考える。 評論を参考に、教科書に掲載されている作品の一つについて論述する。 	○	○	○
1	8	小説「鞆」 安部公房	<ul style="list-style-type: none"> 物語の展開や状況の変化に注意して小説を読み、現代の社会や自らの生活を捉え直す。 寓意に注意しながら小説を読み、「現代」という時代について考えを深める。 この作品を読んでいない人に紹介するという設定で、本のポップを作成する。 	○	○	○
2 3	1 2	後期期末考査・解説 次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> 前時までの内容を振り返り、今後の学習に役立てる。 1、2年次での振り返りと次年度の課題について考える。 	○	○	○

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教科名	数 学	年 次	2	コース	共通
科目名	数 学 II	履修区分	必修	単位数	4
教科書 (出版社)	「新編 数学II」(数研出版)				
副教材 (出版社)	「3TRIAL II」(数研出版) もしくは「3TRIAL II+B」(数研出版)				
教科の目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
	(1) 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	(1) 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	(1) 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。		
科目の目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
	(1) いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	(2) 数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統一的・発展的に考察したりする力を養う。	(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。		

1 学習の進め方と留意点

(1) 課題学習型授業

主に与えられた問題を解くことで、思考力や自主学習能力を向上させます。考查は選択制で、1学年時の考查形式を踏襲し8割が共通問題、2割は標準問題及び基礎問題とします。標準問題が評価に大きく関わります。

(2) 家庭学習

「わかる」と「できる」は同じではありません。「わかる」ために授業をフル活用し、「できる」ようになるために家庭学習（授業時間外の学習）を習慣にしてください。問題集、スタディサプリ等に繰り返し取り組みましょう。

2 評 価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	・いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	・数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統一的・発展的に考察したりする力を養う。	・数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
評価資料	・活動状況の観察 ・ワークシート等の記述内容 ・各種課題等の記述内容 ・確認テスト等の点数 ・定期考查の点数	・活動状況の観察 ・ワークシート等の記述内容 ・各種課題等の記述内容 ・確認テスト等の点数 ・定期考查の点数	・活動状況の観察 ・ワークシート等の記述状況 ・宿題・課題等の提出状況 ・振り返りシート
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%~79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%~79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%~79%) C(40%未満)とする
評定 及び 観点別学習状況の評価	3観点の達成率を1:1:1で集約し、5(80%以上)、4(60%~80%未満)、3(40%~60%未満)、2(30%~40%未満)、1(30%未満)の評定をつける。 また、各観点の評価を「ABA」等の形でまとめて観点別学習状況の評価とする。		

3 年間授業計画

月	時数	学習内容	学習活動や学習のねらい	評価の観点		
				知	思	態
4	10	1章 方程式・式と証明 1節 整式・分数式の計算 1 整式の乗法と因数分解 (2) 2 二項定理 (4) 3 整式の除法 (4)	3次式の乗法公式と因数分解の公式について理解し計算できる。 パスカルの三角形から二項定理の数字の並びに気づき、その応用を通して数学の良さに触れる。 整式の割り算をすることができる。また、整式Aを整式Bで割った商と余りRの関係式A=BQ+Rを見いだすとともに、この関係式から余りを求めることができる。	○	○	○

5	12	4 分数式とその計算 (4) 2節 2次方程式 1 複素数とその演算 (6) 【前期中間考査】 (2)	分数の中に式が入っている整式の約分や通分と四則計算ができる。 数の範囲を複素数まで拡張することに興味をもち、その必要性和意味を理解する。	○		○
6	16	2 解の公式 (5) 3 解と係数の関係 (5) 3節 高次方程式 1 因数定理 (6)	数の範囲を複素数まで拡張すると、どのような2次方程式でも解の公式によって解くことができることや、2つの解を持つことを理解する。 2次方程式の2つの解の和と積が、方程式を解かなくても解と係数の関係によって求めることができることに興味を持つ。 剰余の定理、因数定理を理解する。	○		○
7	12	2 簡単な高次方程式 (6) 4節 式と証明 1 恒等式 (6)	因数分解や因数定理を利用して高次方程式を解くことができる。 恒等式の考えを理解し、等式の証明ができるようになる。	○		○
8	8	2 不等式の証明 (6) 【前期期末考査】 (2)	不等式の性質を理解し、不等式の証明をすることができる。 また、相加平均と相乗平均の間に成り立つ関係を理解し、利用することができる。	○	○	○
9	12	2章 図形と方程式 1節 点と直線 1 直線上の点の座標 (4) 2 平面上の点の座標 (4) 3 直線の方程式 (4)	数直線上の2点間の距離や、内分点・外分点の意味を理解し、求めることができる。 平面座標上の2点間の距離や、内分点・外分点を座標の計算で求めることができる。 さまざまな直線の方程式を、図形との関係を明らかにしながら求めることができる。	○		○
10	16	4 2直線の関係 (4) 2節 円 1 円の方程式 (4) 2 円と直線 (4) 3 2つの円の位置関係 (4)	2直線が平行になる場合と垂直になる場合について理解し、それぞれの条件を求めることができる。また、座標を利用して、図形の性質を調べることに興味を持つ。 円の方程式を求めることができる。 直線の方程式と円の方程式を連立させて2次方程式を解くことにより、その共有点の座標を求めることができる。また、円と直線の位置関係に判別式がどのように関連するかを考察することができる。 2つの円の位置関係を理解する。	○	○	○
11	12	3節 軌跡と領域 1 軌跡とその方程式 (4) 2 不等式の表す領域 (3) 2 連立不等式の表す領域 (3) 【後期中間考査】 (2)	直線や円が条件を満たす点の集合として表せることを理解し、軌跡の方程式を求めることができる。 直線や円によって区切られる領域が1つの不等式で表されることを理解する。また、不等式が表す領域を図示することができる。 いくつかの不等式で表される領域がそれぞれの不等式が表す領域の共通部分であることを理解し、それを図示することができる。	○	○	○
12	12	3章 三角関数 1節 三角関数 1 一般角 (2) 2 弧度法 (2) 3 三角関数 (4)	360°以上の角やマイナスの角の考え方について理解する。 弧度法による角の表示について理解し、扇形の面積や弧の長さを求めることができる。 三角関数を一般角、弧度法により定義し、三角関数と単位	○	○	○

		4 三角関数の性質 (4)	円との関係や値域を理解する。また、三角関数の相互関係などについて理解する。 三角関数の性質を理解する。	○	○	○
1	8	5 三角関数のグラフ (8)	三角関数のグラフの特徴に興味を持ち、その特徴を理解してグラフから様々な事を考察することができる。	○	○	○
2	12	6 三角関数を含む 方程式・不等式 (10) 【後期期末考査】 (2)	三角関数を含む方程式や不等式の解法を理解する。	○	○	○
3	10	2 節 加法定理 1 加法定理 (4) 2 加法定理の応用 (3) 3 三角関数の合成 (3)	三角関数の加法定理の考え方を学び、公式を操作することについて理解する。また、 15° や 75° などの計算ができるようになる。 加法定理から 2 倍角の公式を導き、利用できる。 三角関数の合成について理解し、関数の最大値、最小値を求めることができる。	○	○	○

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教科名	数 学	年 次	2	コース	共通
科目名	数 学 B	履修区分	選択	単位数	2
教科書 (出版社)	「新編 数学 B」(数研出版)				
副教材 (出版社)	「3TRIAL II+B」(数研出版)				
教科の目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
	(1) 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	(1) 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	(1) 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。		
科目の目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
	(1) 数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活との関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	(2) 離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。	(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。		

1 学習の進め方と留意点

(1) 課題学習型授業

主に与えられた問題を解くことで、思考力や自主学習能力を向上させます。考査は選択制で、1 学年時の考査形式を踏襲し 8 割が共通問題、2 割は標準問題及び基礎問題とします。標準問題が評価に大きく関わります。

(2) 家庭学習

「わかる」と「できる」は同じではありません。「わかる」ために授業をフル活用し、「できる」ようになるために家庭学習（授業時間外の学習）を習慣にしてください。問題集、スタディサプリ等に繰り返し取り組みましょう。

2 評 価

評価の観点	知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	・数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	・離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。	・数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
評価資料	・活動状況の観察 ・ワークシート等の記述内容 ・各種課題等の記述内容 ・確認テスト等の点数 ・定期考査の点数	・活動状況の観察 ・ワークシート等の記述内容 ・各種課題等の記述内容 ・確認テスト等の点数 ・定期考査の点数	・活動状況の観察 ・ワークシート等の記述状況 ・宿題・課題等の提出状況 ・振り返りシート
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%~79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%~79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%~79%) C(40%未満)とする
評定 及び 観点別学習状況の評価	3 観点の達成率を 1 : 1 : 1 で集約し、5 (80%以上)、4 (60%~80%未満)、3 (40%~60%未満)、2 (30%~40%未満)、1 (30%未満)の評定をつける。 また、各観点の評価を「ABA」等の形でまとめて観点別学習状況の評価とする。		

3 年間授業計画

月	時数	学習内容	学習活動や学習のねらい	評価の観点		
				知	思	態
4	7	1 章 数列	数列の概念および数列についての基本的な用語の意味を理解する。 等差数列についての関心を深め、一般項を初項と公差を使って表せることを理解する。 等差数列の初項から第 n 項までの和の求め方に興味を持ち、それが n を用いて表せることを理解する。 等比数列について関心を深め、一般項を初項と公比を使って表せることを理解する。	○	○	○
		1 節 等差数列と等比数列				
		1 数列と一般項 (1)				
		2 等差数列 (2)				
		3 等差数列の和 (7)				
		4 等比数列 (2)				

5	6	5 等比数列の和 (2) 2節 いろいろな数列 6 和の記号 Σ (2) 7 階差数列 (1) 8 いろいろな数列の和 (1)	等比数列の初項から第 n 項までの和の求め方に興味をもち、それが n を用いて表せることを理解する。 記号 Σ の意味と性質を理解し、自然数の累乗の和を Σ を用いて表すことができる。 階差数列を利用して、もとの数列の一般項が求められる。 数列の和 S_n と第 n 項 a_n の関係を理解し、数列の一般項が求められる。	○	○	○
6	6	【前期中間考査】 3節 漸化式と数学的帰納法 1 漸化式 (3) 2 数学的帰納法 (2)	数列の帰納的な定義について理解し、漸化式から一般項が求められる 数学的帰納法について理解し、等式などの証明に利用できる。	○	○	○
7	6	2章 統計的な推測 1節 確率分布 1 確率変数と確率分布 (2) 2 確率変数の期待値と分散 (4)	確率変数、確率分布の意味を理解する。また、確率分布を求めることができる。 確率変数の期待値、分散、標準偏差を求めることができる。	○	○	○
8	4	3 確率変数の和と積 (2) 4 二項分布 (2) 【前期期末考査】	確率変数の和の期待値を、公式を利用して求めることができる。 二項分布の意味を理解する。また、二項分布の確率や平均、分散および標準偏差を計算できる。	○	○	○
9	6	5 正規分布 (4) 2節 統計的な推測 6 母集団と標本 (2)	連続分布とその代表の正規分布について理解し、正規分布に従う確率変数の確率が計算できる。また、二項分布で近似して確率の計算ができる。 標本調査の意義を認識し、標本の抽出法や用語を理解する。また、母集団の平均、分散、標準偏差が計算できる。	○	○	○
10	6	7 標本平均の分布 (2) 8 推定 (2) 9 仮説検定 (2.5) (2)	標本平均の平均と分散を計算できる。また、標本平均の分布と正規分布の関係を理解する。 推定に関わる用語・記号を適切に活用することができる。 仮説検定に関わる用語を適切に活用することができる。	○	○	○
11	6	3章 数学と社会生活 1 数学を活用した問題解決 (6) 【後期中間考査】	日常生活における問題や社会問題を数学的に考察するときの手順を理解している。 数学的に問題を解決するのに必要な数値や関数は、調査結果を用いて妥当な値を仮定できることを理解している。	○	○	○
12	6	2 社会の中にある数学 (6)	選挙における議席の割り振り方を理解し、与えられた手順通りに割り振ることができる。 偏差値を用いると、異なるデータ間で値を比較できることを理解している。	○	○	○
1	6	3 変化をとらえる～移動平均～ (6)	移動平均を用いると長期的な変化の傾向が調べやすくなることを理解している。	○	○	○

2	6	4 変化をとらえる ～回帰分析～ (6)	散布図について理解し，傾向を読み取ることができる。 回帰直線を利用して，観測していないデータを予測することができる。	○	○	○
3	5	研究 最小2乗法 (5)		○	○	○

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教科名	理科	年次	2	コース	共通
科目名	地学基礎	履修区分	必修	単位数	2
教科書(出版社)	「地学基礎 新訂版」(実教出版)				
副教材(出版社)	「ビジュアルプラス 地学基礎ノート 改訂版」(実教出版)				
教科の目標	自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す				
	(1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けられるようにする。	(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	(3) 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。		
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。				
	(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	(2) 地球や地球を取り巻く環境を対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、野外観察、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法を習得するとともに、報告書の作成や発表を通して、何が分かるようになったかを表現することができる。	(3) 地球や地球を取り巻く環境に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度が養われている。自然環境の保全に寄与する態度が養われている		

1 学習の進め方と留意点

(1) 実験・観察 各单元において適宜、実験・観察を行います。操作に対する説明を理解し、安全に実習に取り組みましょう。また、目的意識を持って実験・観察に取り組み、科学的に探求することの基礎を学びましょう。
(2) 身につけるべき知識とその活用 物質とその変化に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的に探究する力を身につける。学習した知識を基に、化学と日常生活や社会との関わりを考えることができるように努める。
(3) 家庭学習 授業の予習・復習を行い、学習内容を定着できるように努めましょう。ワークブックや教科書の問題、授業プリントを用いた学習に繰り返し取り組みましょう。

2 評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	・日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	・地球や地球を取り巻く環境を対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、野外観察、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法を習得するとともに、報告書の作成や発表を通して、何が分かるようになったかを表現することができる。	・地球や地球を取り巻く環境に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度が養われている。
評価資料	・活動状況の観察 ・ワークシート等の記述内容 ・各種課題等の記述内容 ・確認テスト等の点数 ・定期考査の点数	・活動状況の観察 ・ワークシート等の記述内容 ・各種課題等の記述内容 ・確認テスト等の点数 ・定期考査の点数	・活動状況の観察 ・ワークシート等の記述内容 ・各種課題等の提出状況 ・確認テスト等の点数 ・振り返りシート等
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A(80%以上) B(40%~79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A(80%以上) B(40%~79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A(80%以上) B(40%~79%) C(40%未満)とする
評定及び 観点別学習状況の評価	3観点の達成率を1:1:1で集約し、5(80%以上)、4(60%~80%未満)、3(40%~60%未満)、2(30%~40%未満)、1(30%未満)の評定をつける。 また、各観点の評価を「ABA」等の形でまとめて観点別学習状況の評価とする。		

3 年間授業計画

月	時数	学習内容	学習活動や学習のねらい	評価の観点		
				知	思	態
4	4	1章 地球の構成と運動 1節 地球の構造 1.地球の形と大きさ 2.地表のようす 3.地球内部の構造	・地球の形の特徴と大きさを、観察や測定の結果などから見いださせて理解させる。 ・地球の内部には層構造があり、その状態が異なることを理解させる。 ・地球内部の層構造について、地殻、マントル、外核、内核の区分と状態を扱う。また、それぞれの代表的な構成物質についても扱う。	○	○	○

5	6	2節 プレートの運動 1.プレートテクトニクス 2.大地形の形成と地質構造	・マントル内にブルームが存在していることを扱う。 ・中央海嶺や海溝、大山脈などの大地形の形成や、断層・褶曲などの地質構造がプレートの運動と関連していることを見いださせる。	○ ○	○	○
6	6	3節 地震と火山 1.地震活動 2.火山活動	・地震の発生プロセスを理解させる。 ・火成岩については、組織と化学組成や鉱物の組合せに基づいて分類されること、及び多様な火成岩がマグマの性質と関係していることを学ばせる。	○ ○	○	
7	6	2章 大気と海洋 1節 大気と運動 1.高度による気圧・気温の変化 2.大気層構造 3.大気中の水とその状態 4.大気の状態	・気圧や気温の鉛直方向の変化に関する資料に基づいて、大気層構造の特徴を見いだして理解させる。 ・大気層構造については、気圧や気温が高度とともに変化することや、対流圏、成層圏、中間圏、熱圏が気温の変化によって区分されていることを理解させる。 ・対流圏では雲の発生や降水、成層圏ではオゾン層により紫外線が吸収されること、熱圏ではオーロラや流星が見られることなどを学ばせる。	○ ○	○	○
8	4	2節 大気の大循環 1.地球のエネルギー収支 2.大気エネルギー収支 3.大気大循環 4.温帯低気圧と熱帯低気圧	・人工衛星による赤外面像や放射冷却に関する資料に基づいて、大気や地表から放射が行われていることを理解させる。 ・水蒸気、二酸化炭素やメタンなどが温室効果をもたらしていることを学ばせる。	○		○
9	6	3節 海洋の構造と海水の運動 1.海洋層構造 2.海水の運動と循環 4節 日本の四季の気象と気候 1.気象と気候 2.日本の四季	・大気と海水の運動に関する資料に基づいて、大気と海洋の大循環について理解させるとともに、それらの地球規模の流れと緯度による太陽放射の受熱量の変化などから、地球規模で熱が輸送されていることを見いださせて理解させる。 ・人工衛星による赤外面像や放射冷却に関する資料に基づいて、大気や地表から放射が行われていることを理解させる。 ・年平均の風や海流の分布などの資料に基づいて、偏西風、貿易風、ハドレー循環、暖流、寒流などを理解させる。	○ ○	○	○
10	8	3章 宇宙、太陽系と地球の誕生 1節 宇宙の誕生 1.宇宙の姿 2.天体の距離と光の速さ 3.ビッグバンから天体の誕生まで	・宇宙の誕生、及び太陽系の誕生について理解させるとともに、地球が太陽系の一員として誕生し、生命を生み出す条件を備えた惑星となった過程を理解させる。 ・宇宙の誕生については、ビッグバンを扱い、宇宙の年齢と宇宙の誕生の過程で水素やヘリウムの原子がつけられたことを理解させる。	○ ○	○	○
11	8	2節 太陽の誕生 1.現在の太陽 2.太陽の誕生 3節 惑星の誕生と地球の成長 1.太陽系の姿 2.太陽系の誕生と惑星の分類 3.地球の誕生と成長	・太陽系の誕生については、原始太陽系円盤から太陽系が誕生したことを理解させる。その際、惑星が形成された過程を中心に扱い、惑星の形成過程で物質の分化により内部に層構造ができたことを学ばせる。 ・太陽からの距離、質量、大きさなどによって、水が液体として存在できる環境がつけられたことや、原始大気が形成されたことを取り上げ、地球が生命を生み出す条件を備えているという特徴をもつことを理解させる。	○ ○	○	○
12	6	4章 古生物の変遷と地球環境の変化 1節 地層の成り方 1.地層の成り方 2.堆積岩 3.地層を調べる 2節 化石と地質時代 1.化石	・地層や化石に関する観察などを行い、古生物の変遷などに基づいて古生代、中生代、新生代の地質時代が更に区分されることを理解させる。 ・地球環境の変化に関する資料に基づいて、大気の変化と生命活動が相互に関わりをもちながら地球環境が変化してきたことを見いださせて理解させる。	○ ○	○	○

1	6	<p>2.地層の対比と地質時代の区分</p> <p>3 節 古生物の変遷と地球環境</p> <p>1.初期生命と大気の変化</p> <p>2.多様な生物の出現と脊椎動物の発展</p>	<p>・古生代の三葉虫、フズリナ、イクチオステガ、リンボク、中生代の恐竜、アンモナイト、ソテツ、トリゴニア、新生代のイネ科などの被子植物、貨幣石、ビカリア、ナウマンゾウなど代表的な化石について学ばせる。また、ヒトの進化では、直立二足歩行などの人類の特徴を扱う。</p> <p>・光合成生物の出現による酸素の増加やオゾン層の形成、オゾン層の形成による地表での紫外線の減少と生物の陸上進出について理解させる。</p>	○		○
2	6	<p>3.哺乳類の繁栄と人類の発展</p> <p>5章 地球の環境</p> <p>2節 地球環境の科学</p> <p>1.人間がもたらす環境問題と自然変動</p>	<p>・日本における自然環境の特徴を理解させ、それらがもたらす恩恵や災害など、人間生活が自然環境と深く関わっていることを学ばせる。</p> <p>・地域の自然災害の実例や防災に関する資料、ハザードマップなどに基づいて、地域の自然災害の特徴を理解させる。</p>	○		○
3	4	<p>2.気候変動と地球環境問題</p> <p>3.地球環境と物質循環</p> <p>4.地球環境に与える人間生活の影響</p>	<p>・地球環境の変化を見だし、その仕組みを理解させるとともに、それらの現象と人間生活との関わりについて認識させる。</p> <p>・地球温暖化、オゾン層破壊、エルニーニョ現象などについて仕組みを理解させるとともに、人間生活に関連していることを理解させる。</p>	○	○	○

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教科名	地理歴史	年次	2	コース	共通
科目名	地理総合	履修区分	必修	単位数	2
教科書(出版社)	「新選地理総合 welcome to geography」(実教出版) 「標準高等地図」(帝国書院)				
副教材(出版社)	「新選地理総合 演習ノート」(実教出版)				
教科の目標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な市民としての資質・能力を育成することを目標とする。				
	(1) 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	(2) 地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	(3) 地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。		
科目の目標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な市民としての資質・能力を育成することを旨とする。				
	(1) 地理にかかわる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けさせる。	(2) 地理にかかわる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養わせる。	(3) 地理にかかわる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを深めさせる。		

1 学習の進め方と留意点

(1) 授業の進め方

- ・予習や振り返りなどにより、地理的事象を捉える基本的な概念や知識を身に付ける。
- ・一斉授業、グループ学習、発表などの学習活動を行い、物事を多面的・多角的に考察し、他者の意見を交えて合理的かつ公正に判断する力を身に付ける。
- ・資料から適切な情報を選択し、課題を追究したり解決したりする活動、レポートにまとめたり発表したりする活動などを行い、課題追究・課題解決の方法を身に付ける。

(2) 学習に当たって

- ・メディアによる報道をはじめとする様々な情報発信の取捨選択を適切に行い、現代的特質や課題に関心を持つ。
- ・関心事項の調査や考察をおこない、論点を見いだすところに地理学習の本質的なねらいがあることを理解する。
- ・疑問や気づき・発見を大切にするとともに、他教科科目の学びも活かしながら主体的に学習活動をおこなう。

2 評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	現代の地理的諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念や理論について理解しているとともに、諸資料から、学習活動をするために必要となる情報を適切かつ効果的に理解し、その力を発揮することができている。	地理的諸課題の解決に向けて、選択・判断の手がかりとなる考え方や基本的原理や技能を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断して人々の生活や共生社会を視野に入れながら構想したことを議論したり表現したりしている。	・よりよい共生社会の実現を視野に、時代を担う公民として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 ・知識及び技能を獲得し、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。また、粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。
評価資料	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査問題 ・ワークブックの取り組み ・学習課題の取り組み ・学習の振り返り ・探究的活動の役割と行動 ・地理的問題への関心 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査問題 ・ワークブックの取り組み ・学習課題の取り組み ・学習状況、討論発表の観察 ・学習の振り返り ・探究的活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・対話的で意欲的な学習活動 ・定期考査問題 ・ワークブックの取り組み ・学習状況、討論発表の観察 ・学習の振り返り ・学習記録の提出
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A(83%以上) B(82%~51%) C(50%以下)とする	各資料の達成率を基に、 A(83%以上) B(82%~51%) C(50%以下)とする	各資料の達成率を基に、 A(83%以上) B(82%~51%) C(50%以下)とする
評定及び 観点別学習状況の評価	3観点の達成率を1:1:1で集約し、5(90%以上)、4(80%~90%未満)、3(50%~80%未満)、2(40%~50%未満)、1(40%未満)の評定をつける。 また、各観点の評価を「ABA」等の形でまとめて観点別学習状況の評価とする。		

3 年間授業計画

月	時数	学習内容	学習活動や学習のねらい	評価の観点		
				知	思	態
4	6	第1編 地図や地理情報システムでとらえる現代世界 1 球面と平面 2 経度と緯度 3 日常のなかの地図 4 国家の領域と日本 5 国家間の結びつき	・最近の地図はどのように作られているのか。 ・緯度と経度を理解するメリットとは。 ・一般図と主題図の違いとは。統計地図とは。 ・日本の位置的特徴と国家の領域をめぐる争い。 ・国家間の結びつきはどのように変化してきたか。	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
5	8	6 モノ・人・情報のグローバル化 7 世界の交通、 8 観光のグローバル化 第2編 第1章 生活文化の多様性と国際理解 自然環境と生活文化 1 地形と生活文化 2 気候と生活文化	・グローバル化は経済活動にどのような影響を与えたのか。 ・海路、空路、陸路における交通・物流の特徴とは。 ・観光客の増加によって生じる課題とは。 ・人々は山地や平野、海岸の地形をどのように利用して生活してきたか。 ・各気候帯における生活上の工夫や課題にはどのようなものがあるか。	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○
6	8	テーマ1 東アジア 経済発展で揺れ動く人々の暮らし	・経済の発展により、産業や社会、生活文化はどのように変化したか。	○	○	○
7	4	テーマ2 東南アジア 生業・経済の発展と人々の暮らし	・経済の発展やグローバル化の進展により、生業や地域の結びつきはどのように変化したか。	○	○	○
8	4	テーマ3 南・西アジア、北アフリカ 宗教と結び付く生活文化	・南アジアの成り立ちや生活文化、産業のあり方に宗教はどのようにかわってきたのか。	○	○	○
9	8	テーマ4 ヨーロッパ 国家の統合と生活文化	・統合の進展は、生活文化や産業にどのような影響を与えたのか。	○	○	○
10	8	テーマ5 ロシアと周辺諸国 国家の拡大・変容と生活文化	・国家の変容は、生活文化や産業にどのような影響を与えたのか。	○	○	○
11	8	テーマ6 サハラ以南アフリカ 多民族・多文化の共存と生活文化 テーマ7 北アメリカ 移民国家の形成と生活文化	・多民族社会の分断は、生活文化や産業にどのような影響を与えたのか。 ・移民による多文化共生社会はどのように形成されてきたのか。	○ ○	○ ○	○ ○
12	4	テーマ8 ラテンアメリカ 移民による多文化社会の形成と変容	・先住民と移民による多民族・多文化社会はどのように形成されてきたのか。	○	○	○
1	4	テーマ9 オセアニア 先住民と移民による多文化社会の発展	・先住民と移民による多民族・多文化社会はどのように形成されてきたのか。	○	○	○
2	4	第2章 地球的課題と国際協力 1 人口問題の展開と対策 2 アンバランスな人口分布 3 食料問題の要因と解決に向けた課題 4 都市・居住問題 5 エネルギー資源の開発と限界 6 温暖化対策と再生可能エネルギー 7 さまざまな場所の地球環境問題	テーマ1～9の学びを踏まえ、現代における地球的課題について最も関心の課題について探究し、発表を行う。 ※活動は冬季休業中の課題となる。	○	○	○
3	4	第3編 持続可能な地域づくりと私たち 第1章 自然災害と防災 第2章 地域調査	日本の地形的特色をもとに自然災害について検討し、防災意識の高揚と被災時の適切な対処法や地域の防災体制の認知について理解を深める。	○	○	○

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教科名	地理歴史	年次	2	コース	共通
科目名	歴史総合	履修区分	必修	単位数	2
教科書(出版社)	「明解 歴史総合」(帝国書院)				
副教材(出版社)	「明解 歴史総合ノート」(帝国書院)				
教科の目標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目標とする。				
	(1) 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	(2) 地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したしたことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	(3) 地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。		
科目の目標	広い視野と見識を養い、「近代化」、「大衆化」、「グローバル化」の3つの軸を中心に歴史を捉え、生徒が現代的な諸課題を考える力を身に付けることを大目標とする。そのために、歴史的知識をただ覚えるのではなく、その理解に必要な技能をより多く習得させる。 また、平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者としての生き方を見いだせるよう、多面的・多角的な考察力、適切で確かな判断力を磨き、主体的学習に取り組む人間の形成を目指す。				
	(1) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について世界とそれの中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	(2) 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに注目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	(3) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。		

1 学習の進め方と留意点

(1) 授業の進め方 <ul style="list-style-type: none"> ・予習や振り返りなどにより、近現代の歴史を捉える基本的な概念や知識を身に付ける。 ・一斉授業、グループ学習、発表などの学習活動を行い、物事を多面的・多角的に考察し、他者の意見を交えて合理的かつ公正に判断する力を身に付ける。 ・資料から適切な情報を選択し、課題を追究したり解決したりする活動、レポートにまとめたり発表したりする活動などを行い、課題追究・課題解決の方法を身に付ける。 (2) 学習に当たって <ul style="list-style-type: none"> ・メディアによる報道をはじめとする様々な情報発信の取捨選択を適切に行い、現代的特質や課題に関心を持つ。 ・関心事項の調査や考察をおこない、論点を見いだすところに歴史学習の本質的なねらいがあることを理解する。 ・疑問や気づき・発見を大切にするとともに、他教科科目の学びも活かしながら主体的に学習活動をおこなう。

2 評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念や理論について理解しているとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したり表現したりしている。	・よりよい社会の実現を視野に、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 ・知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。また、粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。
評価資料	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・副教材の取り組み ・ワークシートやポートフォリオ等の作成内容 ・問い立ての設定内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・副教材の取り組み ・ワークシートやポートフォリオ等の作成内容 ・問い立ての解答作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・副教材の取り組み ・ワークシートやポートフォリオ等の作成への取組 ・授業観察(学習状況、討論・発表・ノートなど) ・振り返り
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A(83%以上) B(82%~51%) C(50%以下)とする	各資料の達成率を基に、 A(83%以上) B(82%~51%) C(50%以下)とする	各資料の達成率を基に、 A(83%以上) B(82%~51%) C(50%以下)とする
評定及び 観点別学習状況の評価	3観点の達成率を1:1:1で集約し、5(90%以上)、4(80%~90%未満)、3(50%~80%未満)、2(40%~50%未満)、1(40%未満)の評定をつける。		

また、各観点の評価を「ABA」等の形でまとめて観点別学習状況の評価とする。

3 年間授業計画

月	時数	学習内容	学習活動や学習のねらい	評価の観点		
				知	思	態
4	6	1 部 歴史の扉 1 章 歴史と私たち 1 食文化から見る日本と世界の歴史 2 歴史の特質と資料/歴史的資料の解釈 2 部 近代化と私たち 近代化への問い 18 世紀までの世界 1 章 江戸時代の日本と結び付く世界 1 アジアの中の江戸幕府	中学までの振り返りで地理的歴史的事象をフィードバックさせる。 ・ 歴史を学ぶ意義を知る。簡単な確認をする。 ・ オリエンテーションを行う。簡単な確認をする。 資料の読み取り方の技能について確認をする。 ・ 適切な情報選択をおこない、その情報を基に考察する。 歴史的な問い立てを行い、諸資料を通じて解決する力をつける。 ・ 近世までの国際関係のあるものを通して理解する。 18 世紀の日本と世界のつながりを通して考察力を身に付ける。 ・ 江戸幕府の鎖国政策のねらいを考察する。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
5	8	2 成熟する江戸社会 3 清の繁栄と結び付くアジア 4 アジア・アメリカに向かうヨーロッパ 2 章 欧米諸国による近代化 1 イギリスの革命とアメリカの独立 2 フランス革命 3 フランス革命の影響 4 産業革命で変わる社会 5 イギリスの繁栄と国際分業体制	・ 江戸社会の特質について考察する。 ・ 清のアジア・ヨーロッパとの結び付きの背景について考察する。 ・ ヨーロッパのアジア、アメリカ進出について考察する。 17～18 世紀のヨーロッパ社会の変化の本質について理解を深める。 ・ ヨーロッパ社会の変質について理解する。 ・ ヨーロッパの近代化が幕開けることを理解する。 ・ ヨーロッパ全土への近代化の広がりについて理解する。 ・ 近代化が産業革命の推進によって激変することを理解する。 ・ イギリスを中心とする近代化について理解する。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
6	8	3 章 近代化の進展と国民国家の形成 1 1848 年 2 国民国家の成立とロシアの近代化 3 アメリカの拡大と第 2 次産業革命 4 帝国主義と世界の一体化 4 章 アジア諸国の同様と日本の開国 1 西洋の衝撃と西アジアの変化 2 南・東アジアの植民地化 3 節 ヨーロッパの日本接近とアヘン戦争 4 黒船の来航と日本の対応	産業革命期の世界経済体制を理解し、アジアや欧米諸国の経済の変化について資料を用いて表現させる。 ・ 近代ヨーロッパの転換点について説明する。 ・ 国民国家成立の背景とロシア近代化の遅れを説明する。 ・ アメリカの統一と進展と第 2 次産業革命の関係について説明する。 ・ 第 2 次産業革命後の世界の変化について説明する。 国家間格差の拡大を埋めるために必要なことについて考えさせる。 ・ イスラム諸国が欧州勢力の進出により受けた影響を考察する。 ・ アジアにイギリスが進出した理由を考察する。 ・ 清の欧州勢力進出に対する反応について考察する。 ・ 日本の欧州勢力進出に対する反応について考察する。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
7	4	5 新体制の模索と江戸幕府の滅亡 5 章 近代化が進む日本と東アジア 1 新政府の誕生 2 近代国家を目指す日本 3 日本と清の近代化と日清戦争 4 列強の中国進出と日露戦争 5 日露戦争が与えた影響	・ 近代化を受け入れた日本国内の対応について考察する。 日本や東アジアの近代化の変化を資料から読み取る力を身に付ける。 ・ 資料から明治維新を読み解く。 ・ 資料から日本の近代化政策を読み解く。 ・ 資料から日本、清、朝鮮の国際関係を読み解く。 ・ 資料から日清戦争後の国際関係を読み解く。 ・ 日露戦争の影響が世界に与えた影響を資料から読み解く。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
8	4	3 部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 1 章 国際秩序の変化や大衆化の問い 1 ドイツの挑戦とバルカンの緊張 2 総力戦となった第一次世界大戦 3 ロシア革命と大戦の終結 2 章 国際協調と大衆社会の広がり 1 ヴェルサイユ体制の成立	国際秩序の変化や大衆化について考察させる。 ・ ドイツとロシアの対外政策変更について考察する。 ・ 諸国やその国民がどのようにして第一次大戦に関わったのかを考察する。 ・ ロシアで社会主義政権が成立した背景を考察する。 世界に拡大した大衆化について考察させる。 ・ 第一次大戦後の国際秩序の内容について考察する。	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教科名	外国語	年次	2	コース	共通
科目名	英語コミュニケーションⅡ	履修区分	必修	単位数	4
教科書（出版社）	「All Aboard! English Communication II」（東京書籍）				
副教材（出版社）	「Listening Pilot Level 2」（東京書籍）				
教科の目標	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動などを通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指す。				
	(1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深める、これらの知識を、聞く、読む、話す、書くなどの実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況に応じて適切に活用できるようにする。	(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、話し手や書き手の意図などを的確に理解し、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることを目指す。	(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に着ける。		
科目の目標	英語学習の特質を踏まえ、5つの領域別に設定する目標の実現を目指す。				
	(1)聞くこと 日常的话题について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができるようにする。	(2)読むこと 日常的话题について、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握することができるようにする。	(3)話すこと（やり取り） 関心のある事柄や学校生活などの日常的话题について、必要に応じて使用する語句や文、やり取りの具体的な進め方が示される状況で情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝えあうことができるようにする。	(4)話すこと（発表） 関心のある事柄や学校生活などの日常的话题について、必要に応じて使用する語句や文、発話例が示されたり、準備のための一定の時間が確保されたりする状況で、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに詳しく伝えることができるようにする。	(5)書くこと 関心のある事柄や学校生活などの日常的话题について、必要に応じて使用する語句や文、文章例が示されたり、準備のための一定の時間が確保されたりする状況で、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに複数の段落を用いて詳しく書いて伝えることができるようにする。

1 学習の進め方と留意点

<p>(1) Guess 基本語句を確認する</p> <p>(2) Listen 英語を聞き内容を把握する</p> <p>(3) Read 英文解釈・音読など</p> <p>(4) Speak 自分のことを表現する</p> <p>(5) Write 各レッスンの目標に向かって表現する</p> <p>(6) Grammar 基本文法事項を確認する</p>

2 評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	・単元テスト ・小テスト	・単元テスト ・パフォーマンステスト ・ハンドアウト	・提出物 ・ハンドアウト ・言語活動 ・アクティビティ
評価資料	・単元テスト評価 ・小テスト評価	・単元テスト評価 ・パフォーマンス評価 ・ハンドアウト評価	・提出物評価 ・ハンドアウト評価 ・言語活動評価 ・アクティビティ
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする
評定 及び 観点別学習状況の評価	3 観点の達成率を 1 : 1 : 1 で集約し、5 (80%以上)、4 (60%～80%未満)、3 (40%～60%未満)、2 (30%～40%未満)、1 (30%未満)の評定をつける。 また、各観点の評価を「ABA」等の形でまとめて観点別学習状況の評価とする。		

3 年間授業計画

月	時数	学習内容	学習活動や学習のねらい	評価の観点		
				知	思	態
4	12	Lesson 1 A Colorful Island	<ul style="list-style-type: none"> 関係代名詞 what 海外で行ってみたい場所について英語で述べる事が出来る 	○	○	○
5	12	Lesson 2 With the Beatles	<ul style="list-style-type: none"> 比較表現 世代を超えて人気のある人物について英語で述べる事が出来る 	○	○	○
6	12	Lesson 3 Wild Men	<ul style="list-style-type: none"> it の用法 身近な行事について英語で紹介する事が出来る 	○	○	○
7	8	Lesson 4 Little Hero	<ul style="list-style-type: none"> 間接疑問文 自分で好きな物語を英語で紹介する事が出来る 	○	○	○
8	6	Lesson 5 Special Makeup in Kabuki	<ul style="list-style-type: none"> to 不定詞を含む表現 日本の伝統文化について英語で説明する事が出来る 	○	○	○
9	12	Lesson 6 Seeds for Future Generations	<ul style="list-style-type: none"> 動詞の目的語になる if 節 地元で有名な場所やものについて英語で説明する事が出来る 	○	○	○
10	12	Lesson 7 Over the Wall	<ul style="list-style-type: none"> 関係副詞 世界の人々と交流する方法について英語でのべる事が出来る 	○	○	○
11	14	Lesson 8 Inspiration from Nature	<ul style="list-style-type: none"> 知覚動詞 自然界のデザインをヒントにした製品について英語で発表できる 	○	○	○
12	12	Lesson 9 The Bitter Truth behind Chocolate	<ul style="list-style-type: none"> 使役動詞 社会的な問題について英語で意見を述べる事が出来る 	○	○	○
1	8	Lesson 10 Fighting Angel	<ul style="list-style-type: none"> 分詞構文 人を助ける職業について英語で説明する事が出来る 	○	○	○
2	10	2年次の復習	<ul style="list-style-type: none"> Sounds Interesting Zoom in with コーパス Essay Writing 	○	○	○
3	8	2年次の復習	<ul style="list-style-type: none"> 英語活力 UP コーナー Something interesting 	○	○	○

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教科名	外国語	年次	2	コース	共通
科目名	論理・表現 I	履修区分	選択	単位数	2
教科書（出版社）	「MY WAY Logic and Expression I」(三省堂)				
副教材（出版社）					
教科の目標	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。				
	(1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。	(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自立的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。		
科目の目標	英語学習の特質を踏まえ、話すこと（やり取り）、話すこと（発表）、書くことの3つの領域別に設定する目標の実現を目指す。				
	(1) 話すこと（やり取り） 日常的な話題について使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝えあったり、やり取りを通して必要な情報を得たりすることができるようにする。	(1) 話すこと（発表） 日常的な話題について使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができるようにする。	(1) 書くこと 日常的な話題について使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。		

1 学習の進め方と留意点

- (1) Words and Phrases モデル文中の語句や表現を練習する
- (2) Model 英文解釈
- (3) Useful Expression 表現するために大事な文をモデル文の中からとりあげる
- (4) Word Bank 自分のことを表現するときに使える語句や表現を練習する
- (5) Let's Talk / Let's Speak / Let's Write 内容を色々なことにかえて表現する
- (6) Exercise 課で学習する文法を確認する問題練習をする

2 評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	・定期考査 ・小テスト	・提出物 ・言語活動 ・アクティビティ	・提出物 ・小テスト ・言語活動 ・アクティビティ
評価資料	・定期考査評価 ・小テスト評価	・提出物評価 ・言語活動評価 ・アクティビティ評価	・提出物評価 ・小テスト評価 ・言語活動評価 ・アクティビティ評価
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする
評定 及び 観点別学習状況の評価	3 観点の達成率を 1 : 1 : 1 で集約し、5 (80%以上)、4 (60%～80%未満)、3 (40%～60%未満)、2 (30%～40%未満)、1 (30%未満)の評定をつける。 また、各観点の評価を「ABA」等の形でまとめて観点別学習状況の評価とする。		

3 年間授業計画

月	時数	学習内容	学習活動や学習のねらい	評価の観点		
				知	思	態
4	5	Lesson1 Let's talk about ourselves	<ul style="list-style-type: none"> 基本英文法 初対面のあいさつ 自己紹介のスピーチ たくさんの友だちと話をする 	○	○	○
5	5	Lesson2 School Life	<ul style="list-style-type: none"> 基本英文法 好きだった教科についての会話 部活動を紹介する記事の原稿 自分の学校や町を紹介する 	○	○	○
6	6	Lesson3 The Arts	<ul style="list-style-type: none"> 基本英文法 週末の予定についての会話 好きな絵についての発表 どんな顔ができるかな 	○	○	○
7	6	Lesson4 Food and Culture	<ul style="list-style-type: none"> 基本英文法 料理を注文するときの会話 日本の食文化を紹介するレポート 料理の作り方を説明しよう 	○	○	○
8	6	Lesson5 Welcome to our town	<ul style="list-style-type: none"> 基本英文法 道案内の会話 地域の特徴やマスコットキャラクターについての発表 観光案内をしよう 	○	○	○
9	6	Lesson6 Traveling Abroad	<ul style="list-style-type: none"> 基本英文法 買い物の会話 旅行先から友だちへのメール 行ってみたい場所についての発表 	○	○	○
10	6	Lesson7 Sports	<ul style="list-style-type: none"> 基本英文法 スポーツの試合についての会話 車椅子競技を紹介する発表 私はだれでしょう？ 	○	○	○
11	6	Lesson8 Everyday Technology	<ul style="list-style-type: none"> 基本英文法 紙の本と電子書籍のよさについての会話 科学技術製品を紹介する記事の原稿 賛成や反対の意見を言ってみよう 	○	○	○
12	6	Lesson9 Take Care	<ul style="list-style-type: none"> 基本英文法 病院での会話 健康についての発表 皆で意見を述べ合おう 	○	○	○
1	6	Lesson10 SDGs-Take Actions!	<ul style="list-style-type: none"> 基本英文法 SDG s についての会話 SDG s についての原稿発表 友だちに感謝のメッセージを贈ろう 	○	○	○
2	6	Basic Skills ①②	<ul style="list-style-type: none"> パラグラフライティングの書き方 効果的なスピーチの表現 効果的なプレゼンテーションの表現 	○	○	○
3	6	Basic Skills ③④	<ul style="list-style-type: none"> ディスカッションの表現方法 ディベートでの表現方法 	○	○	○

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教科名	保健体育	年次	2	コース	共通
科目名	体育	履修区分	必修	単位数	2
教科書(出版社)	「現代高等保健体育 保体701」(大修館)				
副教材(出版社)	「現代高等保健体育ノート」(大修館)				
教科の目標	体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成することを目指す。				
	(1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。	(2) 運動や健康についての自己や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	(3) 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。		
科目の目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
	(1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。	(2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し、判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	(3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組み、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。		

1 学習の進め方と留意点

<p>(1) 男女別及び共習の形式で実施する。その際、体力や運動技能の差を鑑みて、多角的な評価をする。</p> <p>(2) 互いの違いを受け入れて、協働的・積極的に取り組むこと。</p> <p>(3) ルールやマナーを大切にすること。</p> <p>(4) 健康・安全に留意して活動すること。</p>

2 評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> 運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項について理解している。 各種運動の多様性や体力の必要性を理解し、それらの技能を身に付けている。 各技能の名称や実践の仕方を理解している。 ルールを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決をしようとしている。 自己や仲間の課題に応じた取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫し、考えたことを他者に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業にふさわしい身だしなみをしている。 健康・安全に留意して活動している。 運動の合理的、計画的な実践に自主的に取り組もうとしている。 公正に取り組み、互いに協力している(準備・後片付け含む)。 互いの良さや一人一人の違いを大切にしようとしている。
評価資料	<ul style="list-style-type: none"> 活動状況の観察 単元テスト等の記述内容 技能テスト等の点数 種目の特性の理解 ルールやマナーの理解 	<ul style="list-style-type: none"> 活動状況の観察 単元テスト等の記述内容 技能テスト等の点数 合理的・計画的に取り組む姿勢 課題を把握し、工夫して取り組む姿勢 自己や仲間の考えたことを他者に伝える姿勢 	<ul style="list-style-type: none"> 活動状況の観察 単元テスト等の記述状況 ふさわしい服装 健康・安全を意識した取り組み方 自主的・計画的な取り組み方 仲間との関わりとその協力する態度
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A(80%以上) B(79%~40%) C(40%以下)とする	各資料の達成率を基に、 A(80%以上) B(79%~40%) C(40%以下)とする	各資料の達成率を基に、 A(80%以上) B(79%~40%) C(40%以下)とする

評定 及び 観点別学習状況の評価	3 観点の達成率を <u>1:1:1</u> で集約し、5 (80%以上)、4 (80%未満～60%)、3 (60%未満～40%)、2 (40%未満～30%)、1 (30%未満) の評定をつける。 また、各観点の評価を「ABA」等の形でまとめて観点別学習状況の評価とする。
---------------------	---

3 年間授業計画

月	時数	学習内容	学習活動や学習のねらい	評価の観点		
				知	思	態
4 5	7	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・体育理論 ・体づくり運動 (集団行動) (体力テスト) 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画と授業の目標について確認する。 ・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について運動やスポーツの効果的な学習の仕方について、豊かなスポーツライフの設計の仕方について学ぶ。 ・体を動かす楽しさや心地よさを味わう。 ・仲間と積極的に交流する。 ・個々のねらいに応じ、健康に生活するために運動をおこなうための体力を身につける。 ・集団行動の行動様式を理解する。 ・正しい測定の方法を学ぶ。 ・仲間と協力し、主体的に行動する。 ・道具を正しく使用し、安全にも留意する。 ・自己の体力を理解し、課題を発見する。 	○	○	○
5 6 7	19	<ul style="list-style-type: none"> ・体育理論・単元テスト ・(男子選択) ○バドミントン ○卓球 ・(女子) ○テニス ・ダンス 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の定着度、理解度を深める。 ・安全に留意し、仲間と協力し合いながら取り組む。 ・自己の目標を持ち、個人の能力を最大限に発揮できるよう自己の動作を理解する。 ・各種目の基本技能を身につけ、ミニゲームや試合を展開できるようになる。 ・感じを込めて踊ったり、仲間と自由に踊ったり、自己や仲間の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わう。 	○	○	○
8 9 10	17	<ul style="list-style-type: none"> ・体育理論・単元テスト ・(男子) ○テニス ・(女子選択) ○バドミントン ○卓球 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の定着度、理解度を深める。 ・安全に留意し、仲間と協力し合いながら取り組む。 ・自己の目標を持ち、個人の能力を最大限に発揮できるよう自己の動作を理解する。 ・各種目の基本技能を身につけ、ミニゲームや試合を展開できるようになる。 	○	○	○
10 11 12	17	<ul style="list-style-type: none"> ・体育理論・単元テスト ・(男女共習) ○バレーボール ○バスケットボール 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の定着度、理解度を深める。 ・安全に留意し、仲間と協力し合いながら取り組む。 ・自己の目標を持ち、個人の能力を最大限に発揮できるよう自己の動作を理解する。 ・各種目の基本技能を身につけ、ミニゲームや試合を展開できるようになる。 	○	○	○
12 1 2	7	<ul style="list-style-type: none"> ・体育理論 ・(男女共習) ○スキー・スノーボード ※スノーボードを選択する場合は条件を満たせば可能 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の定着度、理解度を深める。 ・十勝の雄大な自然の中で、ウインタースポーツに親しみ、生涯スポーツの基礎資質を養う。 	○	○	○
3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・レクリエーションスポーツ 	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間と協力して企画・運営を行い、安全に留意しながら取り組む。 	○	○	○

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教科名	保健体育	年次	2	コース	共通
科目名	保健	履修区分	必修	単位数	1
教科書（出版社）	「現代高等保健体育 保体701」（大修館）				
副教材（出版社）	「現代高等保健体育ノート」（大修館）				
教科の目標	体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成することを目指す。				
	(1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。	(2) 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	(3) 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。		
科目の目標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
	(1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。	(2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。	(3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。		

1 学習の進め方と留意点

- (1) 教科書と保健ノートを使用しながら授業を行います。
- (2) 必要に応じて、コンピュータや情報通信ネットワークなどを適切に活用し、学習効果を高めるよう授業を行います。
- (3) 教材の内容と身近な健康や安全に関することを関連させながら理解を深めたり、思考・判断する機会を作ります。
- (4) グループワークなどを通して、自分が考えたことや仲間が考えたことを他者に伝える機会を作ります。

2 評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> 健康を保持増進するための課題の解決に役立つ自らの健康を適切に管理すること、及び環境を改善していくための基礎的な事項について理解したことを言ったり書いたりしている。 〈内容〉 1 単元 現代社会と健康 2 単元 安全な社会生活 3 単元 生涯を通じる健康 4 単元 健康を支える環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> 現代社会と健康、また生涯を通じる健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、表現している。 安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考えているとともに、表現している。 健康を支える環境づくりに関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断ができるとともに、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康を保持増進するためには、自らの健康を適切に管理すること、及び環境を改善していくことが重要であることに関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。
評価資料	<ul style="list-style-type: none"> 活動状況の観察 ワークシート等の記述内容 各種課題等の記述内容 確認テスト等の点数 定期考査の点数 	<ul style="list-style-type: none"> 活動状況の観察 ワークシート等の記述内容 各種課題等の記述内容 確認テスト等の点数 定期考査の点数 	<ul style="list-style-type: none"> 活動状況の観察 ワークシート等の記述状況 各種課題等の提出状況 授業用具の準備（忘れ物）
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (79%～40%) C(40%以下)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (79%～40%) C(40%以下)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (79%～40%) C(40%以下)とする

評定 及び 観点別学習状況の評価	3 観点の達成率を 1 : 1 : 1 で集約し、5 (80%以上)、4 (80%~60%未満)、3 (60%~40%未満)、2 (40%~30%未満)、1 (30%未満) の評定をつける。 また、各観点の評価を「ABA」等の形でまとめて観点別学習状況の評価とする。
---------------------	--

3 年間授業計画

月	時数	学習内容 (カッコ数字は各単元予定時数)	学習活動や学習のねらい	評価の観点		
				知	思	態
4	3	オリエンテーション(1) 1-06 運動と健康(1) P26 特設⑤(1)	・年間の授業内容と評価について説明 ・健康と運動の関係について説明できる。	○	○	○
5	3	1-07 食事と健康(1) P27 特設⑥(1) 1-08 休養・睡眠と健康(1)	・食事と健康の関係について説明できる。 ・健康と休養の関係及び適切な休養のとり方について説明できる。	○	○	○
6	4	1-11 薬物乱用と健康(1) P35 特設⑧(1) 1-12 精神疾患の特徴(1) 1-13 精神疾患の予防(1)	・薬物乱用が心身の健康や社会に及ぼす影響について説明できる。 ・現代社会における精神保健の課題をあげることができる。 ・精神疾患の早期発見のために必要なことを説明できる。	○	○	○
7	2	1-14 精神疾患からの回復(1) P42 特設⑨(1)	・精神疾患の治療について例をあげて説明できる。	○	○	○
8	2	1-18 健康に関する意志決定・行動選択(1) 1-19 健康に関する環境づくり(1)	・意志決定・行動選択に影響を与える要因について説明できる。 ・社会環境の健康への影響について例をあげて説明できる。	○	○	○
9	4	P56.57 特設⑬⑭(1) 【前期期末考査】(1) 【考査返却】(1) 3-06 結婚生活と健康(1)		○	○	○
10	4	3-07 中高年期と健康(1) 3-08 働くことと健康(1) 3-09 労働災害と健康(1) 3-10 健康的な職業生活(1)	・加齢に伴う心身の変化について例をあげて説明できる。 ・働くことの意義と健康との関わりについて説明できる。 ・労働災害の種類とその原因について例をあげて説明できる。 ・職場がおこなう健康に関する取組について例をあげて説明できる。	○	○	○
11	4	4-07 保健サービスとその活用(1) 4-08 医療サービスとその活用(1) 4-09 医薬品の制度とその活用(1) P122.123 特設⑤⑥(1)	・保健行政の役割、サービスの活用例を上げることができる。 ・医療保険の仕組み、医療機関の役割について説明できる。 ・医薬品の正しい使用方法について説明できる。	○	○	○
12	3	2-04 応急手当の意義とその基本(1) 2-05 日常的な応急手当(2)	・応急手当の意義について理解する。 ・日常的なけがや熱中症の応急手当の手順や方法について理解する。 ・救命講習	○	○	○
1	2	2-06 心肺蘇生法(2)	・心肺蘇生法の方法と手順について理解する。 ・救命講習	○	○	○
2	2	【後期期末考査】(1) 【考査返却】(1)		○	○	○
3	2	まとめの授業①(1) まとめの授業②(1)	・1年間の授業を振り返り、自ら興味関心を抱いた分野についてレポートを作成する。	○	○	○

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教科名	情報	年次	2	コース	共通
科目名	情報 I	履修区分	2年必修	単位数	2
教科書(出版社)	「情報 I Flex」(実教出版)				
副教材(出版社)					
教科の目標	情報に関する科学的な見方・考え方を学び、学習活動を通して論理的かつ創造的な思考を身に付ける。				
	(1) 情報分野に関連する技術を身に付けるようにする。	(2) 職業人に求められる課題を発見する力をみにつけ、課題解決に向け知識と技能を活用する力を養う。	(3) 職業人として必要な人間性を育むと共に協働の態度を養う。		
科目の目標	情報社会の中で持続的な発展を担う職業人として必要な知識・技術を身に付けることを目指す。				
	(1) 情報社会を生きる者として必要最低限の IT 用語や基礎知識を身に付ける。	(2) 課題発見から課題解決に向けた取り組みを論理的に構築する思考を養う。	(3) 職業人として最低限必要となる IT スキルの習得を目指す。		

1 学習の進め方と留意点

<p>(1) 全商情報処理検定の筆記問題(過去問)と日検情報処理技能検定(表計算実技)をベースに学習を進めます。検定受験は任意ですが、単元テストとして同検定の過去問やプリント課題(模擬問題集)の問題を出題します。年間を通して反復学習を行うことで、年度末までに合格点(70点)が取れるようになるために、わからない事を放置せず確認する習慣をつけて下さい。</p> <p>(2) 様々なアプリケーションを使う上で必要となる技能として、タイピング速度の向上に努めてください。(日検 文章入力スピード認定試験3級レベル以上(10分間に350字以上)を目標としてください)</p> <p>(3) IT用語(特に頭文字で省略する用語)を覚える際は、英単語の意味から推測すると覚えやすいので、正式名称(略さない名称)を覚えるよう心掛けて下さい。</p>
--

2 評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> 単元テスト 課題レポート 表計算ソフト(実技) 	<ul style="list-style-type: none"> 単元テスト プレゼンテーション(課題) プログラミング(フローチャート) 	<ul style="list-style-type: none"> 身嗜み(校則遵守) 特に、Yシャツの裾が出ていたり、ネクタイ・リボンがだらしなく垂れ下がっていたり(第1ボタンの開放も)と、制服着用ルールは徹底します。 居眠りや授業と無関係なタブレット使用などは評価対象となります。 課題の取り組み状況(メ切厳守) 出席(評価期間の授業数に対し2割を上限値として欠席数を評価)
評価資料	<ul style="list-style-type: none"> 単元テスト 課題レポート 実技テスト 	<ul style="list-style-type: none"> 単元テスト 課題レポート 	<ul style="list-style-type: none"> 出欠 身嗜みチェック表 課題提出状況 検定への取り組み姿勢
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A(80%以上) B(40%~79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A(80%以上) B(40%~79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A(80%以上) B(40%~79%) C(40%未満)とする
評定及び 観点別学習状況の評価	3観点の達成率を1:1:1で集約し、5(80%以上)、4(60%~80%未満)、3(40%~60%未満)、2(30%~40%未満)、1(30%未満)の評定をつける。 また、各観点の評価を「ABA」等の形でまとめて観点別学習状況の評価とする。		

3 年間授業計画

月	時数	学習内容	学習活動や学習のねらい	評価の観点		
				知	思	態
4	5	IT用語	IT用語かるた IT用語の意味を知るための重要な語句を覚える。 (GW課題あり)	○	○	○

5	25	IT用語	コンピュータの基本構成とその役割について学ぶと共に、 そこで使われる単位や表現方法について理解する。	○	○	○
6		コンピュータの5大機能	2進数・10進数・16進数の相互変換（計算方法）を学ぶ。			
7		2進数・16進数 単位（接頭辞） デジタル表現	単位の接頭辞 G：ギガ、T：テラ、μ：マイクロ、n：ナノ など、生活レベルで使用されている単位について覚える。 色、音、画像、動画のデジタル表現やファイル形式について学ぶ			
8	15	プログラミングとモデル化	プログラムの設計図でもあるフローチャートについて学び、 論理的な表現（言語化と構造化）を身に付ける。	○	○	○
9		情報社会における法規と制度	情報の管理や知的財産の保護などについて法制面から正しい 知識を身に付ける。			
10						
11	12	ネットワーク	LAN、WAN、WWWなどのネットワークに関する基礎知識 を身に付ける。	○	○	○
12		情報セキュリティ	暗号化の仕組みやコンピュータウイルス等の基礎知識、サイ バー攻撃から情報を守るための仕組みについて学ぶ。			
1						
2	8	データベースとデータの 活用	相手にとってデータを見やすく表現するための方法につ いて学ぶと共に、データの活用方法についても知識を身に 付ける。	○	○	○
3	5	情報デザイン	情報を伝達するための様々な表現方法について学ぶ。	○	○	○

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教科名	芸術（音楽）	年次	2	コース	共通
科目名	音楽Ⅱ	履修区分	選択	単位数	2
教科書（出版社）	「高校生の音楽2」（教育芸術社）				
副教材（出版社）					
教科の目標	芸術の幅広い活動を通して、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
	(1) 芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。	(2) 創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。	(3) 生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。		
科目の目標	音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
	(1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めるとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。	(2) 個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴くことができるようにする。	(3) 主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。		

1 学習の進め方と留意点

(1) 授業について
<ul style="list-style-type: none"> ・「練習」「演奏・発表」「個人で考えをまとめる」「グループで意見を交流する」等、様々な活動に取り組みます。それぞれの場面に合わせた態度で臨みましょう。 ・楽譜やプリントを配布します。無くさないようファイル等に保管しましょう。
(2) 音楽を形づくっている要素
<ul style="list-style-type: none"> ・音楽の授業では「音色」、「リズム」、「速度」、「旋律」、「テクスチュア」、「強弱」、「形式」、「構成」を中心に知覚と感受を大切にしています。音楽の要素を感じながら聴きましょう。

2 評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解を深めている。 ・創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作などで表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
評価資料	<ul style="list-style-type: none"> ・筆記テスト ・実技テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞感想シート ・表現工夫シート ・実技テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動記録 ・振り返りシート ・観察
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A (80%以上) B (40%～79%) C(40%未満)とする
評定及び 観点別学習状況の評価	3観点の達成率を1：1：1で集約し、5(80%以上)、4(60%～80%未満)、3(40%～60%未満)、2(30%～40%未満)、1(30%未満)の評定をつける。 また、各観点の評価を「ABA」等の形でまとめて観点別学習状況の評価とする。		

3 年間授業計画

月	時数	学習内容	学習活動や学習のねらい	評価の観点		
				知	思	態
4	4	歌唱【校歌】	知識・技能を得たり生かしたりしながら、自分のイメージをもって表現を創意工夫する。 曲想と音楽の構造や歌詞との関わりを感じ取り、理解して表現する 強弱や発想記号等を音楽の要素に関わらせ理解する。	○	○	○
5	6	歌唱【外国の歌】	知識・技能を得たり生かしたりしながら、自分のイメージをもって表現を創意工夫する。 歌った曲を楽譜に書くことができる。 楽典を学習し、読譜の能力を身に付ける。	○	○	○
6	8	器楽【ギター】	知識・技能を身に付けてそれらを生かし、自己のイメージをもって表現を創意工夫する。 楽器の特徴を理解し、表現をより良く工夫して演奏する技能を身に付ける。 楽典（コード等）を学習し、読譜の能力を身に付ける。	○	○	○
7	6	創作[BGM]	音色やリズムの特徴を生かして、自己のイメージをもって表現を創意工夫する。 構成（反復、変化、対照等）を生かして、自己のイメージをもって表現を工夫する。 創作活動をとおして、記譜の能力を高める。 楽曲の音色やリズム、構成の特徴を理解し、良さを自ら味わって聴く。	○	○	○
8	4	歌唱【外国の歌】	曲想と歌詞、曲の成り立ち等との関わりを理解し、表現創意工夫する。 各表現形態の特徴を理解し、表現を創意工夫する。 各表現形態の特徴を生かして歌う技能を身に付ける。	○	○	○
9	6		曲の特徴と曲種に応じた発声との関わりを理解し、表現を創意工夫する。	○	○	○
10	8	鑑賞【日本の伝統音楽】	日本の伝統音楽に対する関心を持ち、他の芸術との関わり等を理解し、よさを自ら味わって聴く。 文化的・歴史的背景と音楽の内容・音楽の要素を理解し、それらの関連を知覚し、それらの働きを感じ取りながら知覚したことと感じ取ったこととの関わりについて考える。	○	○	○
11	8	器楽【リコーダー・ギター】	知識・技能を得たり生かしたりしながら、自分のイメージをもって表現を創意工夫する。 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景との関わりを理解し、表現を創意工夫する。 ソロやアンサンブルによる特徴を理解し、表現する。 曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付ける。	○	○	○
12	6	鑑賞【音楽批評】	楽曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、よさや美しさを自ら味わって聴く。 音楽の要素と曲の成り立ち、ほかの芸術との関わり等を理解し、よさや美しさを自ら味わって聴く。	○	○	○
1	4	歌唱【合唱】	自分のイメージをもって表現を創意工夫する。 合唱の表現の特徴を理解し、表現を創意工夫する。	○	○	○
2	6		全体の響きを感じ取り、他者との調和を意識して歌う技能を身に付ける。	○	○	○
3	4					

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教科名	総合	年次	2	コース	共通
科目名	キャリアアップ	履修区分	必修	単位数	1
教科書(出版社)	なし				
副教材(出版社)	なし				
教科の目標	総合的で教科横断的な学習を通して、自己の在り方生き方を考えながら、それぞれの課題をよりよく解決していくための資質・能力を育成する。				
科目の目標	キャリア学習を通じて、自己の在り方生き方を考えながら、それぞれの課題をよりよく解決していくための資質・能力をつぎのとおり育成する。 (1)自己の能力・適性を理解し、その向上にむけて努力する。 (2)職業や社会についての理解を深め、自らの人生を主体的に切り拓く力の基礎を身に付ける。 (3)他者との協働を通じて、よりよい社会を実現しようとする態度を育む。				

1 学習の進め方と留意点

幸せな大人として生きていくためには、急速に変化する時代に対応できる力を身に付けることが必要です。今ある職業が20年後、30年後にもあるとは限りませんし、機械やAIでもできる仕事には、それらよりも安い賃金しか支払われなくなるでしょう。自分の強みを育てそれを社会で生かしていく方法を考える。人生を通じて粘り強く道を切り拓くために進化し続ける。他者との協働を通じて愛し愛される人になり、ともによりよい社会を作っていく。校訓「考拓愛」に込められた思いを、自らのものにするための科目です。主体的、積極的な取り組みを期待します。

2 評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	・キャリア学習に関する知識及び技能を身に付け、その意義や価値を理解しているか。 ・自己の能力・適性について理解し、その向上に向けて努力できたか。	・キャリア学習を実社会や自己の在り方と関連づけることから、各自の課題を見つけ、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるか。	・キャリア学習に関して、主体的・協働的に取り組むとともに、他者と協調しながら、よりよい社会を実現しようとする態度を持つことができたか。
評価資料	・活動状況の観察 ・ワークシート等の記述内容 ・課題等の記述内容 ・確認テスト等の点数	・活動状況の観察 ・ワークシート等の記述内容 ・課題等の記述内容 ・確認テスト等の点数	・活動状況の観察 ・ワークシート等の記述内容 ・課題等の提出状況 ・振り返りシートの記述内容
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A(80%以上) B(40%~79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A(80%以上) B(40%~79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A(80%以上) B(40%~79%) C(40%未満)とする
評定及び観点別学習状況の評価	3観点の達成率を1:1:1で集約し、5(80%以上)、4(60%~80%未満)、3(40%~60%未満)、2(30%~40%未満)、1(30%未満)の評定をつける。 また、各観点の評価を「ABA」等の形でまとめて観点別学習状況の評価とする。		

3 年間授業計画

月	時数	学習内容	学習活動や学習のねらい	評価の観点		
				知	思	態
4	5	第1回進路希望調査	進路について考えると同時に自分が高校生活で頑張った(アピールできる)ことについても考える機会にする。			○
		手帳・ポートフォリオの指導	カワセミの目(メタ認知能力)の育成。		○	○
		デジタルドリル	次回基礎力診断テストへの練習問題に取り組む。GTZアップを目指す。通年指導。	○	○	○
		さくら組	スタサポを活用した学力養成プログラム。積極的な参加を促す。通年指導。			
5	3	進路達成プログラム	進路希望別のプログラムに同じ目標を持った集団で取り組む。	○	○	○
		進路に関する学習会	進路希望に応じて、進路情報や職業人講話等に参加する。通年指導。	○	○	○
		進学相談会【エビ】	上級学校について知る。同種の学校を比較する。			○
5	3	基礎力診断テスト【ベネッセ】	GTZ(学習到達ゾーン)の把握	○		○
		進路目標について PF「中間考査に向けて」	ここまでの活動をもとに、自分の進路について考える 中間考査に向けた目標設定		○	○

6	4	実力診断テスト【ベネッセ】 進路ガイダンス【キッス・コーポ】 PF「学校祭に向けて」	一般クラス全員受験 GTZ の把握 様々な上級学校について知る。 学校祭に向けた目標設定	○		○ ○
7	3	PF「学校祭を終えて」 PF「夏休みの目標」 夏期講習	目標は達成できたか。 夏休みに向けた目標設定 さくら組と連携。10月模試に向けた学習計画のサポート			○ ○
8	1	PF「夏休みを終えて」 PF「期末考査に向けて」	目標は達成できたか。 期末考査に向けた目標設定		○ ○	○ ○
9	2	PF「期末考査を終えて」 PF「前期を終えて」	目標は達成できたか。 入学時に定めた目標の到達度は？目標の修正は？		○ ○	○ ○
10	6	実力診断テスト【ベネッセ】 見学旅行に向けて	一般クラス希望者全員受験 GTZ の把握	○	○	○
11	3	第2回進路希望調査 PF「中間考査に向けて」	中間考査に向けた目標設定		○	○ ○
12	2	PF「中間考査を終えて」 セルフプレゼン準備 PF「冬休みの目標」 冬期講習	目標は達成できたか。 冬休みに向けた目標設定 さくら組と連携。2年6月模試に向けた学習計画のサポート		○ ○	○ ○ ○
1	2	PF「冬休みを終えて」 セルフプレゼン準備・本番 実力診断テスト【ベネッセ】	目標は達成できたか。 1年間の学びのまとめ（目標への到達度、計画の再構築等） を保護者、担任にプレゼンテーションする。 一般クラス希望者全員受験 GTZ の把握		○	○ ○
2	1	PF「期末考査に向けて」 PF「期末考査を終えて」	期末考査に向けた目標設定 目標は達成できたか。		○ ○	○ ○
3	3	第4回コース別ガイダンス 卒業生講話 PF「1年を振り返って」	進路希望別活動。ここまでの反省。3学年の目標・計画。 体験を通して進路目標に関する意識を高める。 先輩の体験談を自己の進路に生かす。	○ ○	○	○ ○ ○

北海道幕別清陵高等学校 シラバス

教科名	総合	年次	2	コース	共通
科目名	課題探究	履修区分	選択	単位数	2
教科書(出版社)	なし				
副教材(出版社)	なし				
教科の目標	総合的で教科横断的な学習を通して、自己の在り方生き方を考えながら、それぞれの課題をよりよく解決していくための資質・能力を育成する。				
科目の目標	3年次の本格的なコース選択授業に必要なスキルを学ぶ。 コース選択のほか、実生活における問題解決や進路実現に係る論文作成等にもつながる基礎的な力を身に付ける。				
	(1) コース選択に関わる探究の過程において、必要な知識及び技能を身に付けさせるとともに、地域や社会の特徴やよさに気付き、それらが人々の関わりや協働によって支えられていることに気付く。	(2) コース選択に関わる探究の過程において問いを見出し、その解決に向けて仮説を立てたり、調査して得た情報を基に分析したりする力を身に付けるとともに、論理的にまとめ、表現する力を身に付ける。	(3) 探究活動に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を育てる。		

1 学習の進め方と留意点

- (1) 自身の進路を見据えながら、様々な分野に興味関心を持って取り組むことを心掛けてください。「なぜ?」「どうして?」と疑問を持つことから勉強はスタートします。
- (2) 誰かに言われたから行動するのではなく、周囲の状況を見極め自ら進んで行動することが重要です。

2 評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> 授業内容を理解し、知識として身につけている 授業で学んだ技能を活用することができる 	<ul style="list-style-type: none"> 疑問を持つこと、課題を発見すること、自分の意見を持つことができる 自分の考えを他者に伝えることができる 	<ul style="list-style-type: none"> 社会で当たり前求められる規律を守る事を身に付ける 受動的(言われてから動く)ではなく、主体的(考えて自ら動く)行動ができる
評価資料	<ul style="list-style-type: none"> 単元テスト(筆記・実技) 提出物(ノート・課題プリント等) 	<ul style="list-style-type: none"> 単元テスト プレゼンテーション 提出物 	<ul style="list-style-type: none"> 授業での様子(身嗜み、忘れ物、受講姿勢等) 課題等の提出状況
観点別評価	各資料の達成率を基に、 A(80%以上) B(40%~79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A(80%以上) B(40%~79%) C(40%未満)とする	各資料の達成率を基に、 A(80%以上) B(40%~79%) C(40%未満)とする
評定及び観点別学習状況の評価	3観点の達成率を1:1:1で集約し、5(80%以上)、4(60%~80%未満)、3(40%~60%未満)、2(30%~40%未満)、1(30%未満)の評定をつける。 また、各観点の評価を「ABA」等の形でまとめて観点別学習状況の評価とする。		

3 年間授業計画

月	時数	学習内容	学習活動や学習のねらい	評価の観点		
				知	思	態
4	4	各コースのガイダンス グループ分け	<ul style="list-style-type: none"> 学習の進め方について説明 活動グループを決める(各グループ10名程度) 【A:福祉 B:スポーツ&ヘルス C:ビジネス】 A:福祉に関する時事問題、調査学習、レポート作成 B:スポーツ・イン・ライフに向けた学習 C:割合計算(割合、分数、パーセントの計算) 	◎	○	◎
5	6	課題解決プレゼン	将来自分自身が取組みたい課題を見つけ、SDGs視点で自分の考えを発表する。	○	◎	○

6	8	実践演習	福祉)	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション技術 ・介護技術基礎 ・保育技術基礎 	◎	◎	○
7	4		スポ)	<ul style="list-style-type: none"> ・トレーニングとサポート技術 ・リハビリ技術 ・様々なスポーツに親しむ 			
8	4						
9	8		ビジ)	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスの基本 (挨拶・言葉使い・身嗜み) ・儲かりの秘密について考える ・価格について考える ・プロモーション(販売促進)活動 ・経営者の考え方 			
10	8			※コースによっては、校外での実習があります。			
11	8						
12	6						
1	4						
2	6						
3	4		演習発表	まとめ (振り返り)	○	◎	○